

SigmaSystemCenter 3.x データベース(PostgreSQL)のアップグレード手順

利用条件・免責事項

本書の利用条件や免責事項などについては、次のページを参照してください。

<http://jpn.nec.com/site/termsfuse.html>

目次

1. 対象となるアップグレードのケース.....	1
2. 通常環境の場合のアップグレード手順.....	2
2.1 SigmaSystemCenter コンポーネントのサービスの停止.....	3
2.2 PostgreSQL 13 のインストールと設定.....	3
2.3 PostgreSQL のアップグレード.....	4
2.4 SigmaSystemCenter コンポーネントのデータベースユーザパスワードの設定.....	5
2.5 SigmaSystemCenter コンポーネントのサービスの開始.....	9
2.6 アップグレード元 PostgreSQL のアンインストール.....	9
3. クラスタ環境の場合のアップグレード手順.....	10
3.1 CLUSTERPRO のフェイルオーバーグループのリソースの削除(現用系サーバ).....	11
3.2 DeploymentManager、SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視のサービスの停止 (現用系サーバ).....	12
3.3 PostgreSQL 13 のインストールと設定(現用系サーバ).....	13
3.4 PostgreSQL のアップグレード、SigmaSystemCenter コンポーネントのデータベース ユーザパスワードの設定、SigmaSystemCenter コンポーネントのサービスの開始(現 用系サーバ).....	13
3.5 PostgreSQL 13 のインストールと設定(待機系サーバ).....	14
3.6 SigmaSystemCenter コンポーネントのデータベースユーザパスワードの設定(待機系 サーバ).....	15
3.7 CLUSTERPRO のフェイルオーバーグループのリソースの変更.....	16
3.8 待機系へのフェイルオーバー.....	17
3.9 現用系へのフェイルオーバー.....	18
3.10 アップグレード元 PostgreSQL のアンインストール(現用系/待機系).....	18

はじめに

本手順は、SigmaSystemCenter 3.8～3.12 で使用しているデータベース (PostgreSQL) をアップグレードする手順について記載しています。

アップグレードの対象となるのは、PostgreSQL で作成された DeploymentManager、SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視のデータベースです。

アップグレード先は、PostgreSQL 10 以降のバージョンです。

1. 対象となるアップグレードのケース

本手順書では、以下のケースを対象としています。

旧バージョンの SigmaSystemCenter で PostgreSQL 9.5、9.6 を使用している場合は、SigmaSystemCenter のアップグレードが完了したあとに、PostgreSQL をアップグレードしてください。

SigmaSystemCenter のアップグレード後のバージョンと Windows Server のバージョンにより、PostgreSQL のアップグレード可能なバージョンが異なります。

下記のパターン以外でアップグレードが必要な場合は、サポート窓口へお問い合わせください。

- 対象バージョン: SigmaSystemCenter 3.8

OS	アップグレード元 PostgreSQL	アップグレード先 PostgreSQL
Windows Server 2012, 2012 R2, 2016	PostgreSQL 9.5, 9.6	PostgreSQL 10

- 対象バージョン: SigmaSystemCenter 3.9

OS	アップグレード元 PostgreSQL	アップグレード先 PostgreSQL
Windows Server 2012, 2012 R2, 2016	PostgreSQL 9.5, 9.6	PostgreSQL 11

- 対象バージョン: SigmaSystemCenter 3.10

OS	アップグレード元 PostgreSQL	アップグレード先 PostgreSQL
Windows Server 2016	PostgreSQL 9.5, 9.6	PostgreSQL 11, 12
Windows Server 2012, 2012 R2	PostgreSQL 9.5, 9.6	PostgreSQL 11

- 対象バージョン: SigmaSystemCenter 3.11, SigmaSystemCenter 3.12

OS	アップグレード元 PostgreSQL	アップグレード先 PostgreSQL
Windows Server 2016	PostgreSQL 9.5, 9.6	PostgreSQL 11, 12, 13
Windows Server 2012, 2012 R2	PostgreSQL 9.5, 9.6	PostgreSQL 11

2. 通常環境の場合のアップグレード手順

通常環境(クラスタではない環境)をご使用で PostgreSQL をアップグレードする場合は、以下の手順を実施してください。

SigmaSystemCenter の対象バージョンへのアップグレードが完了している環境が、前提となります。

注

クラスタ環境をご使用で PostgreSQL をアップグレードする場合は、「[3. クラスタ環境の場合のアップグレード手順 \(10 ページ\)](#)」を実施してください。

<アップグレード手順概要>

アップグレード元の PostgreSQL がインストールされているサーバに、新しいバージョン(アップグレード先)の PostgreSQL をインストールし、アップグレード元 PostgreSQL からデータを移行します。

- SigmaSystemCenter コンポーネント、PostgreSQL のサービスの停止
([「2.1 SigmaSystemCenter コンポーネントのサービスの停止 \(3 ページ\)」](#))
- 新しいバージョン(アップグレード先)の PostgreSQL のインストール
([「2.2 PostgreSQL 13 のインストールと設定 \(3 ページ\)」](#))
- アップグレード元 PostgreSQL からのデータ移行
([「2.3 PostgreSQL のアップグレード \(4 ページ\)」](#))
- SigmaSystemCenter コンポーネントのデータベースユーザパスワードの設定
([「2.4 SigmaSystemCenter コンポーネントのデータベースユーザパスワードの設定 \(5 ページ\)」](#))
- PostgreSQL、SigmaSystemCenter コンポーネントのサービスの開始
([「2.5 SigmaSystemCenter コンポーネントのサービスの開始 \(9 ページ\)」](#))
- アップグレード元 PostgreSQL のアンインストール
([「2.6 アップグレード元 PostgreSQL のアンインストール \(9 ページ\)」](#))

以降の手順では、PostgreSQL のアップグレード元のバージョンを 9.6、アップグレード先のバージョンを 13 の場合を例として、記載しています。

バージョンが異なる場合は、読み替えてください。

2.1 SigmaSystemCenter コンポーネントのサービスの停止

SigmaSystemCenter の各コンポーネントと PostgreSQL のサービスを停止します。

1. 管理サーバに、管理者権限を持つユーザでログオンします。
2. 以下の順番で、サービスを停止してください。
 - a. 【SystemMonitor 性能監視】
 - System Monitor Performance Monitoring Service
 - b. 【SystemProvisioning】
 - PVMService
 - c. 【DeploymentManager】
 - DeploymentManager API Service
 - DeploymentManager Backup/Restore Management
 - DeploymentManager Get Client Information
 - DeploymentManager PXE Management
 - DeploymentManager PXE Mtftp
 - DeploymentManager Remote Update Service
 - DeploymentManager Schedule Management
 - DeploymentManager Transfer Management
 - d. 【PostgreSQL】
 - postgresql-x64-9.6 - PostgreSQL Server 9.6

2.2 PostgreSQL 13 のインストールと設定

新しいバージョン (アップグレード先) の PostgreSQL のインストールと設定を行います。

今回の例では、PostgreSQL 13 となります。

1. データベースサーバに、管理者権限を持つユーザでログインします。
2. 下記の PostgreSQL のサイトから、アップグレードするバージョンの PostgreSQL をダウンロードしてインストールします。

<https://www.postgresql.org/download/windows>

- a. スーパーユーザ(postgres)のパスワードは、アップグレード元の PostgreSQL と同じパスワードを設定してください。

- b. ポートは、アップグレード元の PostgreSQL と同じポート番号を設定してください。(既定値:5432)
 - c. 「Advanced Options」画面では、「Japanese, Japan」を選択してください。
3. PostgreSQL 13 のサービスを停止します。
(PostgreSQL のアップグレードは、サービス停止状態で実施するため)
 - postgresql-x64-13 - PostgreSQL Server 13
4. 「SigmaSystemCenter インストールガイド」の以下を参照して、PostgreSQL の設定ファイル (postgresql.conf) を修正します。
https://jpn.nec.com/websam/sigmasystemcenter/download/3_12/InstallationGuide_312-1.pdf
 - 付録 A PostgreSQL のインストール/アンインストール
 - PostgreSQL のインストール
 - * 「3. PostgreSQL インストールフォルダ¥data 配下の postgresql.conf を、テキストエディタで開き、以下の内容の変更を行います。」
5. システム環境変数 PATH の値を変更します。
コントロールパネルの [システムとセキュリティ] - [システム] - [システムの詳細設定] - [詳細設定] タブの [環境変数] をクリックして表示される「環境変数」ダイアログボックスで、変更してください。
 - a. PostgreSQL 13 のインストールフォルダ¥bin(既定値 : C:¥Program Files ¥PostgreSQL¥13¥bin)を、登録します。
 - b. PostgreSQL 9.6 のインストールフォルダ¥bin(既定値 : C:¥Program Files ¥PostgreSQL¥9.6¥bin)を、削除します。
6. psqlODBC ドライバ (x86 版) をインストールします。
アップグレードした SigmaSystemCenter バージョンのインストールメディアから、下記の zip ファイルを取得してインストールしてください。
< SigmaSystemCenter インストールメディア >¥POSTGRES¥psqlodbc_xx_xx_xxxx-x86.zip
(SigmaSystemCenter 3.12 の既定値 : < SigmaSystemCenter インストールメディア (SSC_3_12) >¥POSTGRES¥psqlodbc_13_02_0000-x86.zip)

2.3 PostgreSQL のアップグレード

PostgreSQL のアップグレードを行います。

1. PostgreSQL インストールフォルダ¥data 配下のクライアント認証の設定ファイル (pg_hba.conf) を、以下の通り変更します。

※PostgreSQL のアップグレード元 (9.6)、アップグレード先 (13) 両方のファイルを、変更してください。

- 以下の行を追加してください。

```
host all all 127.0.0.1/32 trust
host all all ::1/128 trust
```

- 既存の以下の行の先頭に、#を記載してください。

```
host all all 127.0.0.1/32 (md5 or scram-sha-256)
host all all ::1/128 (md5 or scram-sha-256)
```

2. アップグレード時のログを出力するフォルダを作成します。

任意のフォルダ(例：C:\%temp)を作成し、フォルダのプロパティを開いて「セキュリティ」タブで「Everyone」グループを追加し、アクセス許可で「変更」を追加します。

3. コマンドプロンプトを管理者として開き、手順 2. で作成したフォルダに移動します。
4. 下記のアップグレードコマンドを実行します。

```
pg_upgrade.exe
-U postgres
--old-datadir "C:/Program Files/PostgreSQL/9.6/data"
--new-datadir "C:/Program Files/PostgreSQL/13/data"
--old-bindir "C:/Program Files/PostgreSQL/9.6/bin"
--new-bindir "C:/Program Files/PostgreSQL/13/bin"
```

コマンド実行に成功すると、「アップグレードが完了しました」と表示されます。

5. PostgreSQL 13 のサービスを開始します。
 - postgresql-x64-13 - PostgreSQL Server 13

2.4 SigmaSystemCenter コンポーネントのデータベースユーザパスワードの設定

※以下の手順は、PostgreSQL 13 以降のバージョンをインストールした場合のみ実施してください。

PostgreSQL 13 以降のバージョンは、以前のバージョン(PostgreSQL 9.x)と既定のユーザ認証方式が異なるため、アップグレードに伴いパスワードの再設定が必要となります。

下記の手順で、PostgreSQL の postgres ユーザと、SigmaSystemCenter の新規インストール時に作成したデータベースユーザのパスワードの再設定を行います。

また、各 SigmaSystemCenter コンポーネントに保存されたデータベースユーザのパスワードも、合わせて再設定を行います。

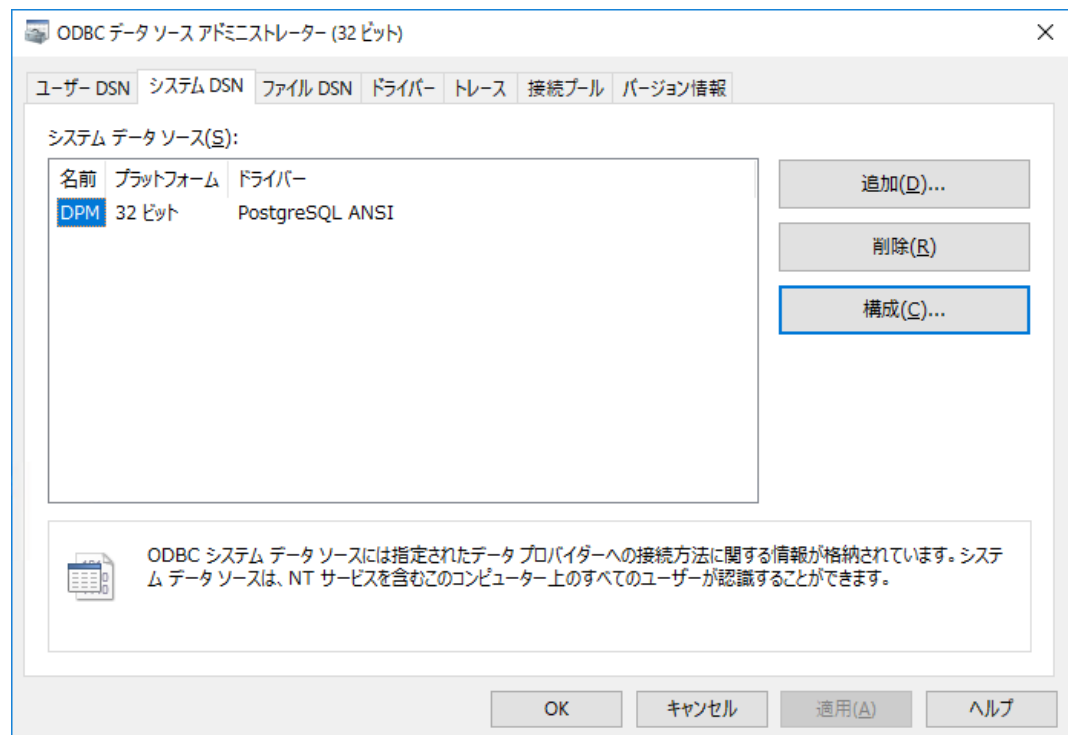
1. コマンドプロンプトから下記のコマンドを実行して、**postgres ユーザ**と**SigmaSystemCenter**のデータベースユーザのパスワードを再設定します。

```
psql.exe -h 127.0.0.1 -U postgres -p ポート
postgres=# \password postgres
新しいパスワードを入力してください:
もう一度入力してください:
postgres=# \password "SigmaSystemCenter のデータベースユーザ"
新しいパスワードを入力してください:
もう一度入力してください:
```

2. 管理サーバに、管理者権限を持つユーザでログオンします。
3. DeploymentManager のデータベースのユーザ情報を設定します。
 - a. 「ODBC データ ソース アドミニストレーター」画面を起動します。
コマンドプロンプトを起動して、以下のコマンドを実行してください。

```
%WINDIR%\SysWOW64\odbcad32.exe
```

- b. 「ODBC データ ソース アドミニストレーター」画面で、「システム DSN」タブを選択した後に、システムデータソースの一覧から「DPM」を選択し、[構成] をクリックします。



- c. 「ODBC セットアップ」画面の「既定の認証」欄に、データベースのユーザ名と新しいパスワードを入力して [保存] をクリックします。

- d. コマンドプロンプトで、下記のコマンドを実行します。

```
< DPM サーバインストールパス > %dbconvert.exe -u USERNAME="ユーザ名" PASSWORD="パスワード"
(既定値 : C:\Program Files (x86)\NEC\DeploymentManager\dbconvert.exe)
```

4. 下記のツールを実行して、SystemProvisioning のデータベースのユーザパスワードを設定します。

```
< SystemProvisioning のインストールディレクトリ > %bin\PvmConfig.exe
(既定値 : C:\Program Files (x86)\NEC\PVM\bin\PvmConfig.exe)
```

環境設定

SQLServer接続情報 PostgreSQL接続情報

構成情報にアクセスするためのパラメータを設定します。この設定を反映するには、System Provisioningを再起動する必要があります。

サーバー名: localhost

ポート番号: 5432

ユーザID: ssc

パスワード: *****

パスワード(確認用): *****

接続確認

保存 閉じる

5. 下記のツールを実行して、SystemMonitor 性能監視のデータベースのユーザパスワードを設定します。

```
< SystemMonitor 性能監視のインストールディレクトリ>%bin%rm_databasecfg.exe
(既定値 : C:\Program Files (x86)\NEC\SystemMonitorPerformance\bin\rm_databasecfg.exe)
```

System Monitor - データベース設定ツール

データベースにアクセスするためのパラメータを設定します。この設定を反映するには、性能監視サービスを再起動する必要があります。

SQL Server PostgreSQL

ホスト名: 127.0.0.1

ポート: 5432

アカウント: ssc

パスワード: *****

パスワード(確認用): *****

接続確認

OK キャンセル

2.5 SigmaSystemCenter コンポーネントのサービスの開始

PostgreSQL、SigmaSystemCenter の各コンポーネントのサービスを開始します。

1. データベースサーバで、「2.3 PostgreSQL のアップグレード (4 ページ)」の手順 1. でクライアント認証の設定ファイル (pg_hba.conf) に追加した行と、既存行の先頭に追加した#を削除してください。
2. 管理サーバに、管理者権限を持つユーザでログオンします。

以下の順番で、サービスを開始してください。

- a. 【DeploymentManager】
 - DeploymentManager API Service
 - DeploymentManager Backup/Restore Management
 - DeploymentManager Get Client Information
 - DeploymentManager PXE Management
 - DeploymentManager PXE Mtftp
 - DeploymentManager Remote Update Service
 - DeploymentManager Schedule Management
 - DeploymentManager Transfer Management
- b. 【SystemProvisioning】
 - PVMService
- c. 【SystemMonitor 性能監視】
 - System Monitor Performance Monitoring Service

2.6 アップグレード元 PostgreSQL のアンインストール

「SigmaSystemCenter インストレーションガイド」の以下を参照して、アップグレード元 PostgreSQL をアンインストールします。

https://jpn.nec.com/websam/sigmasystemcenter/download/3_12/InstallationGuide_312-1.pdf

- 付録 A PostgreSQL のインストール/アンインストール
 - PostgreSQL のアンインストール

※注意事項 : psqlODBC ドライバはアンインストールしないでください。

3. クラスタ環境の場合のアップグレード手順

クラスタ環境をご使用で PostgreSQL をアップグレードする場合は、以下の手順を実施してください。

SigmaSystemCenter の対象バージョンへのアップグレードが完了している環境が、前提となります。

注

クラスタ環境の場合は、本書に併せて以下のマニュアルをご使用ください。

- SigmaSystemCenter 3.1 / 3.2 / 3.3 / 3.4 / 3.5 / 3.6 / 3.7 / 3.8 / 3.9 / 3.10 / 3.11 / 3.12 インストールガイド
- SigmaSystemCenter 3.1 / 3.2 / 3.3 / 3.4 / 3.5 / 3.6 / 3.7 / 3.8 / 3.9 / 3.10 / 3.11 / 3.12 コンフィグレーションガイド
- SigmaSystemCenter 3.1 / 3.2 / 3.3 / 3.4 / 3.5 / 3.6 / 3.7 / 3.8 / 3.9 / 3.10 / 3.11 / 3.12 クラスタ構築手順
- CLUSTERPRO X 4.3 for Windows インストール&設定ガイド
<https://jpn.nec.com/clusterpro/clpx/manual.html?#anc-x43>
- CLUSTERPRO X ソフトウェア構築ガイド for Windows のデータベース
<https://jpn.nec.com/clusterpro/clpx/guide.html#anc-win>

- クラスタ環境構成

本手順では、「SigmaSystemCenter 3.x クラスタ構築手順」(x は、バージョン番号)に示す通り、以下のクラスタ環境構成で、アップグレードインストールを行うものとして記載しています。

- クラスタ環境

現用系 : 1 台 / 待機系 : 1 台の計 2 台による「2 ノード・共有ディスクまたは、ミラーディスク・片方向スタンバイ」構成

<アップグレード手順概要>

アップグレード元の PostgreSQL がインストールされているサーバ(現用系/待機系)に、新しいバージョンの PostgreSQL をインストールし、アップグレード元 PostgreSQL からデータを移行します。

- 「[3.1 CLUSTERPRO のフェイルオーバーグループのリソースの削除\(現用系サーバ\) \(11 ページ\)](#)」

- 「3.2 DeploymentManager、SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視のサービスの停止(現用系サーバ) (12 ページ)」
- 「3.3 PostgreSQL 13 のインストールと設定(現用系サーバ) (13 ページ)」
- 「3.4 PostgreSQL のアップグレード、SigmaSystemCenter コンポーネントのデータベースユーザパスワードの設定、SigmaSystemCenter コンポーネントのサービスの開始(現用系サーバ) (13 ページ)」
- 「3.5 PostgreSQL 13 のインストールと設定(待機系サーバ) (14 ページ)」
- 「3.6 SigmaSystemCenter コンポーネントのデータベースユーザパスワードの設定(待機系サーバ) (15 ページ)」
- 「3.7 CLUSTERPRO のフェイルオーバーグループのリソースの変更 (16 ページ)」
- 「3.8 待機系へのフェイルオーバー (17 ページ)」
- 「3.9 現用系へのフェイルオーバー (18 ページ)」
- 「3.10 アップグレード元 PostgreSQL のアンインストール(現用系/待機系) (18 ページ)」

以降の手順では、アップグレード元の PostgreSQL のバージョンを 9.6、アップグレード先をバージョン 13 として記載しています。

バージョンが異なる場合は、読み替えてください。

3.1 CLUSTERPRO のフェイルオーバーグループのリソースの削除(現用系サーバ)

※この作業は、「現用系サーバ」で行ってください。

本手順では、アップグレード中にレジストリ同期やフェールオーバーを発生させないために、レジストリ同期リソース、スクリプトリソース、およびサービスリソースを削除します。

SigmaSystemCenter の各コンポーネントのコンソール、ツールなどを起動している場合は、終了してください。

また、すべての Web ブラウザなどのアプリケーションを閉じて終了してください。

1. クラスタの停止
 - a. 作業を行う現用系サーバに、Administrator でログオンします。
 - b. Cluster WebUI を起動して、画面の上部にある [ステータス] をクリックし、ステータス画面でクラスタ名をクリックして表示されるクラスタアクションの [クラスタ停止] をクリックして、クラスタを停止します。
 - c. ステータス画面の上部に、「接続サーバは停止中です。」というメッセージが表示されていることを確認します。

2. CLUSTERPRO の構成情報の保存
 - a. Cluster WebUI 画面のツールバーのドロップダウンメニューで、[設定モード] を選択します。
 - b. 現在の CLUSTERPRO の構成情報を保存するため、[設定のエクスポート] をクリックします。
 - c. 現用系サーバ上の任意のフォルダ (例えば C:\TEMP) に保存します。(ファイル名は、clpconf_cluster_yyyymmdd.zip です。)
3. スクリプトリソース、レジストリ同期リソース、およびサービスリソースの削除
 - a. 編集エリアで、[グループ] の中の 対象のフェイルオーバーグループ名をクリックします。
 - b. 表示されるグループリソースの中で、スクリプトリソース(既定の名称:script)のゴミ箱アイコンをクリックして削除します。(スクリプトリソースを使用していない場合は、本手順は実施不要です。)
 - c. グループリソースで、レジストリ同期リソース(既定の名称:regsync)のゴミ箱アイコンをクリックして削除します。
 - d. グループリソースで、サービスリソース(既定の名称:service)のゴミ箱アイコンをクリックして削除します。(サービスリソースを使用していない場合は、本手順は実施不要です。)
 - e. [設定の反映] をクリックします。「反映に成功しました。」というメッセージを確認して、[OK] をクリックします。
4. クラスタの開始
 - a. Cluster WebUI 画面のツールバーのドロップダウンメニューで、[操作モード] を選択します。
 - b. Cluster WebUI 画面の上部のステータス画面でクラスタ名をクリックし、表示されるクラスタアクションから [クラスタ開始] をクリックして、クラスタを開始します。
 - c. Cluster WebUI のステータス画面で、「クラスタは正常に動作しています。」と表示され、すべてのステータステーブルが、緑色(正常)か灰色(停止済)であることを確認します。

3.2 DeploymentManager、SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視のサービスの停止(現用系サーバ)

※この作業は、「現用系サーバ」で行ってください。

以下のサービスが、停止されていることを確認します。

停止していない場合は、以下の順番で手動で停止してください。

1. 【SystemMonitor 性能監視】
 - System Monitor Performance Monitoring Service
2. 【SystemProvisioning】
 - PVMService
3. 【DeploymentManager】
 - DeploymentManager API Service
 - DeploymentManager Backup/Restore Management
 - DeploymentManager Get Client Information
 - DeploymentManager PXE Management
 - DeploymentManager PXE Mtftp
 - DeploymentManager Remote Update Service
 - DeploymentManager Schedule Management
 - DeploymentManager Transfer Management
4. 【PostgreSQL】
 - postgresql-x64-9.6 - PostgreSQL Server 9.6

3.3 PostgreSQL 13 のインストールと設定(現用系サーバ)

※この作業は、「現用系サーバ」で行ってください。

現用系サーバに、新しいバージョン(今回の例では、PostgreSQL 13)の PostgreSQL のインストールと設定を行います。「[2.2 PostgreSQL 13 のインストールと設定 \(3 ページ\)](#)」を参照して、実施してください。

以下の注意事項があります。

- インストール中の「Data Directory」画面では、「F:\¥postgres¥13¥data」を指定してください。

3.4 PostgreSQL のアップグレード、SigmaSystemCenter コンポーネントのデータベース

ユーザパスワードの設定、SigmaSystemCenter コンポーネントのサービスの開始(現用系サーバ)

※この作業は、「現用系サーバ」で行ってください。

現用系サーバで、PostgreSQL のアップグレード、SigmaSystemCenter コンポーネントのデータベースユーザパスワードの設定と、PostgreSQL、SigmaSystemCenter の各コンポーネントのサービスを開始します。

下記の本書の各手順を参照して、実施してください。

- 「[2.3 PostgreSQL のアップグレード \(4 ページ\)](#)」

「4. 下記のコマンドを実行します。」のコマンドは、下記のように記述します。

```
pg_upgrade.exe
-U postgres
--old-datadir "F:/postgres/data"
--new-datadir "F:/postgres/13/data"
--old-bindir "C:/Program Files/PostgreSQL/9.6/bin"
--new-bindir "C:/Program Files/PostgreSQL/13/bin"
```

- 「[2.4 SigmaSystemCenter コンポーネントのデータベースユーザパスワードの設定 \(5 ページ\)](#)」
- 「[2.5 SigmaSystemCenter コンポーネントのサービスの開始 \(9 ページ\)](#)」

3.5 PostgreSQL 13 のインストールと設定(待機系サーバ)

※この作業は、「待機系サーバ」で行ってください。

待機系サーバに、新しいバージョン(今回の例では、PostgreSQL 13)の PostgreSQL のインストールと設定を行います。

1. 「[2.2 PostgreSQL 13 のインストールと設定 \(3 ページ\)](#)」を参照して、実施してください。

以下の注意事項があります。

- インストール中の「Data Directory」画面では、< PostgreSQL インストールフォルダ>%data (既定値)を指定してください。

※待機系サーバでのインストール時は、共有ディスク、またはミラーディスク上の PostgreSQL データベース格納先フォルダを、指定しないように注意してください。

2. PostgreSQL 13 のサービスが停止されていることを確認し、「スタートアップの種類」を"手動"に設定してください。

- postgresql-x64-13 - PostgreSQL Server 13
3. レジストリエディタを起動して、以下のレジストリを変更してください。
PostgreSQL データディレクトリが、「F:¥postgres¥13¥data」に変更されます。
 - キー: HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥services¥postgresql-x64-13
 - 値の名前:ImagePath
 - * 変更前のデータ: "C:¥Program Files¥PostgreSQL¥13¥bin¥pg_ctl.exe" runservice -N "postgresql-x64-13" -D "C:¥Program Files¥PostgreSQL¥13¥data" -w
 - * 変更後のデータ: "C:¥Program Files¥PostgreSQL¥13¥bin¥pg_ctl.exe" runservice -N "postgresql-x64-13" -D "F:¥postgres¥13¥data" -w

3.6 SigmaSystemCenter コンポーネントのデータベースユーザパスワードの設定(待機系サーバ)

※この作業は、「待機系サーバ」で行ってください。

待機系サーバで、SigmaSystemCenter コンポーネントのデータベースユーザパスワードの設定を実施します。

1. 「2.4 SigmaSystemCenter コンポーネントのデータベースユーザパスワードの設定 (5 ページ)」の下記手順を参照して、実施してください。
(レジストリ同期で同期されない設定について、待機系で設定します。)
 - 「3. 下記手順を実施して、DeploymentManager のデータベースのユーザ情報を設定します。」
 - 「1. 「ODBC データ ソース アドミニストレーター」画面を起動します。」
 - 「2. 「ODBC データ ソース アドミニストレーター」画面で、「システム DSN」タブを選択した後に、システムデータソースの一覧から「DPM」を選択し、[構成]をクリックします。」
 - 「3. 「ODBC セットアップ」画面の「既定の認証」欄に、データベースのユーザ名と新しいパスワードを入力して [保存] をクリックします。」
2. 現用系で設定した SystemMonitor 性能監視のデータベースのユーザパスワードを、待機系に反映します。
 - a. 現用系の下記ファイルを、待機系の同ファイルと置き換えてください。
 - < SystemMonitor 性能監視インストールフォルダ >¥rm_database.xml

(既定値:C:\Program Files (x86)\NEC\SystemMonitorPerformance\bin
¥rm_database.xml)

3.7 CLUSTERPRO のフェイルオーバーグループのリソースの変更

※この作業は、「現用系サーバ」で行ってください。

バージョンアップした PostgreSQL の情報を設定するため、エクスポートした CLUSTERPRO の設定のインポートとリソース設定の変更を行います。

1. クラスタの停止
 - a. 作業を行う現用系サーバに、Administrator でログオンします。
 - b. Cluster WebUI を起動して、画面の上部にある [ステータス] をクリックし、ステータス画面でクラスタ名をクリックして表示されるクラスタアクションの [クラスタ停止] をクリックして、クラスタを停止します。
 - c. ステータス画面の上部に、「接続サーバは停止中です。」というメッセージが表示されていることを確認します。
2. CLUSTERPRO の設定インポート
 - a. Cluster WebUI 画面のツールバーのドロップダウンメニューで、[設定モード] を選択します。
 - b. CLUSTERPRO の構成情報を復元するため、[設定のインポート] をクリックします。
 - c. 「ファイルのアップロード」画面が表示されたら、「[3.1 CLUSTERPRO のフェイルオーバーグループのリソースの削除\(現用系サーバ\) \(11 ページ\)](#)」でエクスポートしたスクリプトリソースを指定します。
 - d. 編集エリアの [グループ] で、対象のフェイルオーバをクリックします。
 - e. 表示されるグループリソースの中で、スクリプトリソース、レジストリ同期リソース、およびサービスリソースが、表示 (復元) されていることを確認します。
(スクリプトリソース、サービスリソースは、元々登録されていなかった場合は表示されません。)
3. スクリプトリソースの構成情報の変更と反映

(サービスリソースを使用している場合は、サービスリソースの設定で PostgreSQL13 のサービスに変更してください。)

 - a. 2つのスクリプトリソース (start.bat, stop.bat) の PostgreSQL の設定を、PostgreSQL 13 用に変更します。
 - スクリプトリソース 「start.bat」

PostgreSQL のサービス名を設定している箇所が、「通常起動対応処理」と「フェイルオーバー対応処理」の2か所あります。

- 設定変更前:

```
armload service_postgresql-x64-xx /S /WAIT 180 /M /FOV postgresql-x64-xx (xx は、バージョン番号)
```

- 設定変更後:

```
armload service_postgresql-x64-13 /S /WAIT 180 /M /FOV postgresql-x64-13
```

- スクリプトリソース「stop.bat」

PostgreSQL のサービス名を設定している箇所が、「通常終了対応処理」と「フェイルオーバー対応処理」の2か所あります。

- 設定変更前:

```
armkill service_postgresql-x64-xx (xx は、バージョン番号)
```

- 設定変更後:

```
armkill service_postgresql-x64-13
```

- 変更した設定を反映するため、[設定モード]-[設定の反映]をクリックします。
- 「反映に成功しました。」という画面が表示されたら、[OK]をクリックします。

4. クラスタの開始

- Cluster WebUI の [操作モード] を選択します。
- Cluster WebUI 上部の [ステータス] をクリックし、クラスタ名をクリックして表示されるクラスタアクションから [クラスタ開始] を選択します。
- しばらくすると、Cluster WebUI の [ステータス] 画面に、「クラスタは正常に動作しています。」と表示されます。すべてのステータステーブルが、緑色(正常)か灰色(停止済)であることを確認します。

3.8 待機系へのフェイルオーバー

フェイルオーバーを行い、待機系サーバに切り替えます。

- Cluster WebUI のステータス画面で、[グループ] フォルダ内のフェイルオーバー名を選択します。
- 待機系サーバにフェイルオーバーします。

待機系サーバの [グループ移動] をクリックします。確認画面が表示された場合は、[移動] をクリックします。

※移動処理が完了するまで、しばらく時間が掛かります。

3. Cluster WebUI 画面の待機系のサーバのステータスが、すべて "起動済" または "正常" になることを確認します。

3.9 現用系へのフェイルオーバー

フェイルオーバーを行い、現用系サーバに切り替えます。

1. Cluster WebUI の ステータス画面で、[グループ] フォルダ内のフェイルオーバー名を選択します。
2. 現用系サーバにフェイルオーバーします。

現用系サーバの [グループ移動] をクリックします。確認画面が表示された場合は、[移動] をクリックします。

※移動処理が完了するまで、しばらく時間が掛かります。

3. Cluster WebUI 画面の現用系のサーバのステータスが、すべて "起動済" または "正常" になることを確認します。

3.10 アップグレード元 PostgreSQL のアンインストール(現用系/待機系)

※この作業は、「現用系サーバ」、「待機系サーバ」で行ってください。

現用系/待機系サーバのアップグレード元の PostgreSQL を、アンインストールします。

「[2.6 アップグレード元 PostgreSQL のアンインストール \(9 ページ\)](#)」の手順を参照して、実施してください。

SigmaSystemCenter 3.x データベース(PostgreSQL)のアップグレード手順

SSC0312-doc-0018

2022 年 05 月 1 版 発行

© NEC Corporation 2022 -